

目指す学校像	夢と希望をはぐくむ 楽しい向小
--------	-----------------

重点目標	1 基礎基本の確実な定着「わかる授業」から「よい授業」へ 学びの自律と個別最適化へ向けて 2 学校・家庭・地域が連携・協働したコミュニティスクールの活動推進 3 安全な施設環境整備の促進 4 質の高い職務遂行のための教職員の組織力向上
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和5年2月27日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○R3全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに平均より下回っている。特に「思考・判断・表現」の結果が他の観点よりも低い状況である。 ○授業規律を守り、学習活動に積極的に参加する児童が多い。前回の全国学調・さ市学調の調査アンケート「課題に向けて自分で考え自分から取り組んでいましたか」の肯定的回答は90%以上である。 (課題) ○R3全国学力・学習状況調査の結果の分析から、低い結果の領域は国語の「話すこと・聞くこと」、算数の「数と計算」である。 ○積極的に学習に取り組んでいるが、「思考・判断・表現」における学習の困難さが見られる。	・「主体的・対話的で深い学び」に向けて、ICTを活用した授業改善	①学校課題研究として研究授業を行い、研究協議を通してICTを活用した授業改善の検証を行う。 ②スタディサプリ、ドリルパークなどの取組みを基にした学習相談を行い、学習内容の理解促進と共に、意欲の向上につなげる。	①学校自己評価の児童のアンケートにおいて「自ら学び、自ら考え、コミュニケーションを通じた学習に取り組んでいる」と明確な肯定的回答をする児童の割合が75%(前回+3P)以上となったか。 ②学校自己評価の児童のアンケートにおいて「ICTを積極的に活用している」と明確な肯定的回答をする児童の割合が80%(前回+2P)以上となったか。	①学校自己評価の児童のアンケートにおいて「自ら学び、自ら考え、コミュニケーションを通じた学習に取り組んでいる」と明確な肯定的回答をする児童の割合が69%で、75%以下(前回-3P)であったが、肯定的な回答は97%であった。 ②学校自己評価の児童のアンケートにおいて「ICTを積極的に活用している」と明確な肯定的回答をする児童の割合が97%で、80%(前回+1P)以上となった。	A	①1人1台タブレットのミライシードの活用により自分の考えを表現し共に学ぶクラスメイトとの共有や意見交換ができるようになったが、その内容の質の向上を今後の授業研究において取り組んでいく。 ②語彙力向上の学習環境づくりを構築していく。	①先生方には毎日の授業やその指導方法における研究への尽力に感謝する。児童のタブレットの活用も順調にできているようで、さらなるスキルアップを願う。自分の考えを表現し、友達との意見や情報交換をしたりすることは、今後更に高めることでより学力の向上に繋がると考える。 ②語彙力とその活用は大切だと考える。 ・ ・ ・ ③発言内容の理由や説明を相手に伝えることはより良い問題解決への大事な要素だと考える。
		・「思考・判断・表現力」の向上のため、読解や説明の言葉による表現活動を取り入れた指導改善	①多教科の授業において、目的に応じた複数のテキストを読む活動を取り入れる。 ②資料等を使って説明する場面や、目的や意図に応じた資料等を使って話す場面を授業中に効果的に設定する。	①②「思考・判断・表現力」の観点において、全国学力・学習状況調査の結果が前年度より良く(+2P)なったか。 ①②「思考・判断・表現力」の観点において、発言等児童の学習活動に向上している様子が見られるか。	①②「思考・判断・表現力」の観点において、全国学力・学習状況調査の結果が前年度より良く(+3P)なった。 ①②「思考・判断・表現力」の観点において、授業中の児童の発言等において向上している様子が見られる。	A	①②各授業において、発言の意図や基となる資料を取り上げることができるようになってきたが、比較したり裏付けたりする理由の説明を明確にできるようにしたい。また、そうすることが納得解への近道であることも理解させたい。	
2	(現状) ○昨年度、本校学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童の姿を基にした地域全体で児童を育てていくための協働した取組を熟議・共有・実行した。 (課題) ○今年度は、協働取組の実行を継続するとともに、さらに家庭や地域に広める。児童育成の質を高めるとともに、児童が地域全体で支えられて育っていることの実感を強めることで、児童の自立(自己指導能力の構築)へとつなげる。	・協働取組による児童育成の状況を地域全体で共有するための広報促進	①本校のHPで学校運営協議会の協働取組の情報を発信する。 ②本校のHPにおいて、学校行事等各コンテンツの内容に合わせた適宜更新を行うことで、学校に関わる方が情報を収集しやすくなる。	①協働取組の情報を適宜配信し、広報促進できたか。 ②学校行事等の更新時期を遅れずに、タイムリーに行うことができたか。	①協働取組の情報を12月までに6回配信し、広報を促進できた。さらに、11月に広報誌第1号を発行し、今後年間3回の割合で発行することとした。 ②学校行事等の更新は、時期を遅れずにタイムリーに行うことができた。	A	①協働活動が学校経営や運営への関心を高め、より身近な関係としてのパイプ作りができた。更なる実践力の強化へより良い連絡体制を作る。 ②HPや学校だよりで実施できた。	①小・中・PTA・地域が一体となった挨拶運動や中庭の整美活動は、よりよく学校教育と関わることでできたと感じている。 ②HPや学校だよりでの情報発信は継続して進めてほしい。 ・ ・ ③挨拶運動の継続に加えて、児童の主体的な運動とも兼ねることができれば教育的活動の効果も上がると思われる。 ④中庭の環境作りの継続を。 ⑤家庭学習の充実を図りたい。
		・小中連携による児童生徒と共にを行う協働体制	①今年度からコミュニティスクールの実施校となる本校児童進学中学校と連携し、児童生徒・保護者・地域の方と共にあいさつ運動を実施する。 ②学校運営協議会委員のPTA会長が旗振り役とした中庭の整備を計画・実行する。	①本校は、児童の進学中学校が別々の区になるため、本校が調整役として連絡を取り合い、イニシアチブを発揮できたか。 ②PTAの発信力を活用した保護者の協働を促進できたか。	①尾間木中学校からの声かけにより、小・中学生合同での挨拶運動を実現するに至り、なおかつコミスクの共同活動としても位置づけ、総勢40人ほどでのあいさつ運動を行うことができた。 ②中庭の整備は、PTAの会長始め、保護者の協力を得て実施することができた。	A	①コミスクや校内の特活部会のさらなる取組みにより、小中合同、地域一体となった挨拶運動の恒常化と児童の主体的な運動への移行。 ②中庭の環境の維持と更なる改善。	
3	(現状) ○本校は開校26年目であり、中庭を設置した8の字型の校舎、3Fまでの吹き抜け・スタンドグラスを設置した昇降口、廊下側の壁がなく、オープンスペースでつながった学年1フロアごとの教室配置、屋上プール、アリーナと称する校舎とフロア続きの重厚な体育館、大樹に見立てた造形物を中央に設置した多目的ホール等、比較的新しく工夫された施設・設備の整った環境である。 (課題) ○事故防止の視点で、昨年令和3年度には、中庭に面した廊下の窓に、落下防止のストッパーを設置した。今年度は、吹き抜け施設に係る落下防止や校内での転倒事故防止の対策を行う。	・年間を通して、外階段での転倒事故や吹き抜けの上層階からの落下物による事故や落下事故防止	①1・2F昇降口の外の階段に、転倒防止の注意喚起のペイントを施す。 ②昇降口校舎内の吹き抜け3F通路からの落下防止ネットの設置を行う。	①外階段での転倒事故が0件であったか。 ②吹き抜け3F通路からの落下物による事故や落下事故が0件であったか。	①転倒防止の注意喚起ペイントを塗りなおして、より目立つようになった。外階段の転倒事故は0件であった。 ②設備の対応は、落下防止ネットの設置はできなかったため、足元に注意喚起のテープを張った。落下物による事故や落下事故は0件であった。	A	①②校内での移動における事故やけが防止の為に児童の自主的な活動の推進を図る。	①学校の教育は安全な環境が前提である。児童の自主的な活動につなげることは学校生活を送る者として、自分達の生活は自分達で築くという教育的な価値として意義があると考える。 ・ ・ ①教職員による定期的な安全点検は丁寧に行ってほしい。 ②第3者の目線での点検も効果的だと考える。
		・定期点検に基づく安全な施設管理	①月ごとの教職員による安全点検の際、事故防止という視点での点検を強化するよう指導し、点検後、担当・事務・管理職で対応箇所の確認や対応方法を迅速に行い、措置を講じる。 ②対策に係る内容を学校だよりで紹介し来校時に確認してもらう。	①安全点検に係る対応措置を1週間以内にできたか。 ②学校評価アンケートの安全に係る該当項目における肯定的な回答の割合が概ね100%(前年度+4P)になったか。	①安全点検に係る対応措置を1週間以内に行うことができた。また、半期が終わった段階で点検方法の見直しを図り、「大丈夫だろう」ではなく「大丈夫だろうか?」という視点での点検を行った。 ②学校評価は、96%であった。	A	①定期的な安全点検の確実な実施 ②学校運営委員会等地域の方やPTAの方々へ校内の巡回等、移動の際に安全面を視点とした点検を行ってもらおう。	
4	(現状) ○高学年教科担任制の実施により、担当する教科について、より深い教材研究ができています。 ○職務遂行に係る教職員のスタンダードに基づいて共通行動を行っている。 (課題) ○高学年教科担任制の実施により、より丁寧な評価とそれに基づいた指導の改善を行う。 ○職務の質の改善による効率化	・教科担任による評価と指導改善を学年間での共通理解することを通じた個別最適化や学級経営への反映	①各教科担任・学年主任・教科主任が相互に連絡・相談・確認を行い、教科の特性を活かした指導や児童の個別最適化学習活動につなげる。 ②各教科担任・学年主任・教科主任が相互に連絡・相談・確認を行い、学級担任が生徒指導や学級経営に活かす。	①学校評価・よい授業のアンケート・さ市学調や全国学調の結果が昨年度より向上したか。 ②教職員の児童理解や生徒指導や学級経営上の課題について、迅速な現状把握・対応方針の決定・実行につながったか。	①学校評価・よい授業のアンケート・さ市学調や全国学調の結果は昨年度より向上した。 ②生徒指導上の問題については、校長室ケース会議を開き、タイムリーな対応につなげることができた。3行以上の連絡帳については朝のうちにコピーを管理職に提出し、必要に応じて管理職からのスピーディーな助言につなげることができた。	A	①課題研修を通じた、授業力の向上をねらいとした研究授業や研究協議をさらに積み重ねていく。 ②校長室ケース会議や3行連絡帳連絡等の取組を継続して行うことで、管理職への風通しの良い体制による児童や保護者への適切かつスピーディーな対応ができるようになる。	①児童の学力向上へ向けて先生方の指導力の研修をしていただいているのはありがたい。 ②担任の先生方と管理職の先生方の風通しが良いことは児童の指導に効果的であると思う。
		・校務分掌担当業務の校内教職員への周知・協議の効率化	①管理職や教務主任による担当学年や主任の業務内容の把握と進捗状況の確認や助言を行う。 ②部会・各種委員会・職員会議の提案において、起案システムを活用することにより、事前の周知・協議準備を行う。	①管理職の確認と助言が職務の質の改善による効率化につながったか。 ②起案システムの活用により、会議での協議の効率化につながったか。	①起案から実施状況まで管理職の確認と助言を図り、本校児童や保護者の実態に合わせた質の改善と効率化を行うことができた。 ②起案システムについては、徐々に浸透してきている。	B	①担当業務の進捗状況を適切に管理職が確認し、必要に応じて助言や支援を行う。また、管理職同士での報告連絡相談確認を丁寧に行う。 ②起案システムの活用と効果について、年度当初に全職員で周知する。	